

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（6・上）

—— 金好珍さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (6) — Part I —
— An Interview with KIM Hojin —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第6回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集 人文科学編』（第102号，2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、1920年済州島大静面新桃里のお生まれで、大阪市に在住しておられた金好珍さんのお話をまとめたものである。

私たちが最初に金好珍さんのお話を伺ったのは、2006年12月24日のことである。この時はもともと『ある朝鮮学校教師の手記——私の歩んできた朝鮮学校の光と影・苦悩の人生——』（私家版，2006年）という自叙伝を書かれた高奉淀さんのお話を伺うことにしていたのだが、高奉淀さんに伴われてお越し下さったのが、金好珍さんであった。その後、金好珍さんからは2007年5月6日に、いま一度インタビューの機会を与えていただいた。本稿は、この2回にわたるインタビューの内容を整理、再構成したものである。

1回目のインタビューは大阪産業大学梅田サテライトで、藤永壯・高正子・伊地知紀子・鄭雅英・皇甫佳英・高村竜平・村上尚子の7名が、また2回目は大阪市生野区の金さんの

ご自宅で、藤永・高・伊地知・鄭・皇甫・高村の6名が聞き手となり実施した。全体の整理と校正は高を中心に伊地知、高村、村上が担当し、鄭が用語解説、福本が参考地図の作成、藤永が最終チェックを担当した。

ところで大変残念なことに、インタビューに応じてくださった高奉湊さんは2007年2月14日に、また金好珍さんは2008年2月24日に他界された。お二人の生前に本稿をご報告できなかったことはまことに遺憾であり、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

以下、凡例的事項を箇条書きにしておく。

- (1) 本文中、文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や、補助的な解説が必要な場合は、[]で説明を挿入した。
- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際*を付し、本文の終わりに解説を載せた。第4、5回報告で解説した用語については、丸数字で報告番号を、アラビア数字で注番号を記し、かっこでくくった(例：(④-*13)は第4回報告の*13をあらわす)。また、2000～2001年の第1回から第3回の報告でとりあげた用語は「(再掲)」と記して解説した。
- (3) 朝鮮語で語られた言葉は、一般的な単語や固有名詞などの場合には漢字やカタカナで、特殊な単語や文章の場合はハングルで表記し、日本語のルビをふった。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュアー側の笑いや驚きなどの反応については、〈 〉で挿入した。
- (5) 話者が語った日本語・朝鮮語は、話者の発音どおりに表記することを基本としたため、いわゆる「標準語」とは異なる場合がある。

なお本稿は言うまでもなく、金好珍さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋、編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが、編集の手が入っている以上、叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを、あらかじめおことわりしておく。

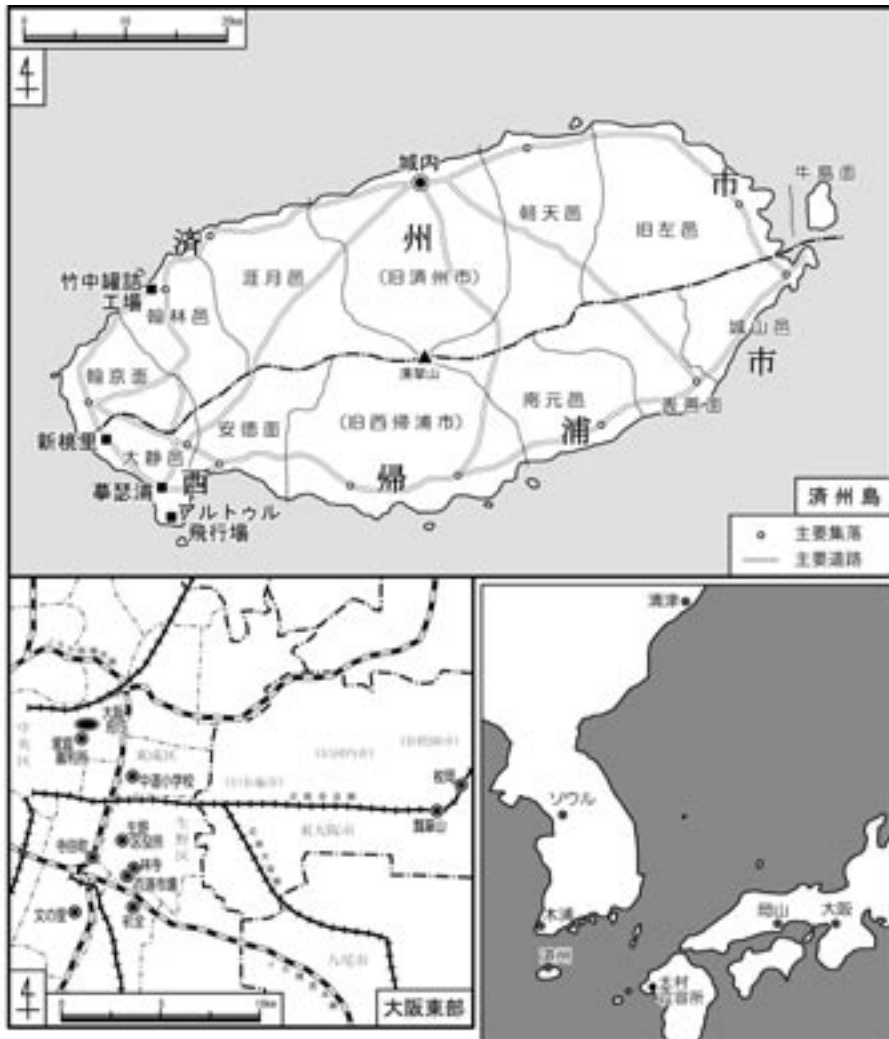
故郷・済州島の記憶

《新桃里から済州北小学校へ》¹⁾

——^{チェジュド}済州島でのお住まいはどちらでした？

金：わしはね、^{テジョンミョン}大静面です。[済州市に]下宿してね、学校[済州北小学校]に行った。

1) 本項の前半(済州北小学校に関わる部分など)は、2006年12月24日に実施した金好珍さん、高奉湊さんとのインタビューの中から、金さんの語りを中心に挿入した。



——^{チェジュド}済州島でお二人が通っていた小学校*1は？

高奉浚：^{チェジュドブクソハッキョ}済州島北小学校。^{ナムソハッキョ}南小学校というのは日本の子どもさんが行ったわけですよ。

朝鮮の子どもらはみな、北小学校。結婚されとる方も、ようけ [多く] 入っておった。

金：たまにしかおらんでしょう。一人二人おったら、大げさに言うから〈一同：笑〉。

高奉浚：たまにおりました〈一同：笑〉。5年前に50年ぶりに [北小学校に] 行ったんですけど、今年も行きました。立派な学校になっていますよ。

金：話し中ですけどね、この人のおじさんが^{パンサ}パンソ [標準語の^{パンサ}判事=判事の意か?], 弁護士ですわ。^{ヤンホンギ}梁洪基*2。^{チェパンソ}崔判事, ^{ケンパンソ}梁判事, 二人しかおりませんよ、その当時ね。弁護士になって、やっておりました。そらあ、権力あるし。その家の甥っ子ですわ。小学校卒業

して、中学校行く生徒なんかおりませんよ。ましてや〔解放前に高奉淀さんが教員をしていた〕^{クワンジュサボムハッキョ}光州師範学校と云えば、一番いい学校のように思いますがね。そこを卒業したら、先生の月給はちゃんとくれるしね。保障されてるんです。わしら師範学校に行きたいなあと思ったこともあるし。

小学校に行く人も数少ないでしょ。10人のうち一人行くか、行かないか。それでも、^{トンチャンセン}うちの同窓生は200名くらいあるんじゃないかね。もう運動会なんかだったらね、一番広い運動場借りてやるんです。学校の運動場でできませんから。そんだけ大きな学校ですわ。日本の学校でも、あんだけ広い学校って、ちょっとないわね。それが^{チェジュド}濟州島で一番生徒の多い学校です。ここを出たのが中学校も行くし、後々に大学に行くのもおるわけです。で、この人のおじさんは判事ですからね、そらあ、大したものですよ。触られませんね〈一同：笑〉、今はおとなしいけどね。懐かしいですわ、昔のことを言うとな。今、わしらの年配の者はおりません、みな、死んでしもうて。

——お住まいは？^{テジョンミョン}大静面のどちらですか？

金：^{シンドリ}新桃里いうて、名もない小さな村ですわ。うちの村でも学校行く人って、そんなにおりませんよ。ましてや大きな学校行く人っておりませんよ。お米やら麦やら粟やら積んでいってね、下宿するんです。

——^{テジョンミョン}大静面にも小学校はあったと思うんですけど。

金：あったけどち小っちゃい。4年制しかない。まともな学校じゃないんですよ。だから遠いから下宿してね、よその家に下宿してね。この先生〔高奉淀さん〕は大事に、大事に、触られんぐらい。薄々覚えています、学校に行っておるのを。師範学校に行くのって、一人二人ですわ。

——^{チェジュン}濟州市に住んでいて、^{テジョンミョン}大静面に帰ることもあるんですか？

金：わしは学校に行くために^{チェジュン}濟州市に住んでいながら、休みなんかに^{モスルポ}慕瑟浦の飛行場*3なんかを見に行きましたよ。どんなもんをつくってるんかなあ、と。あっち行け、て言うのにね、じいっと見て回ったりしました。昭和9〔1934〕年、大阪でも台風で学校が潰れて生徒が死んだりした²⁾。その時にうちの^{チェジュド}濟州島でも凄い台風が吹いて、日本の福井県の船がね、うちの村の海を通っていてね、陸の上まで吹っ飛ばされた。160トンぐらい

2) 1934年9月21日室戸台風が関西圏を直撃し、大阪だけで180校の小学校で校舎が全半壊、教職員・児童・保護者の計267名が死亡した。

の船が逆さまに2隻。^{イルボンサラム}日本人が、9名が死んだし、4、5名は血だらけになって村へ上がってきたものを、この^{キュチュン}圭燦*4らがね、労働者や思ってね、もうとにかくかわいそうだということで、死体を^{ひろ}拾うて火葬に付したり、病院に。病院に行く時、わしも馬に乗せて、その青年を連れて行ったことを覚えています、昭和9年です。その時に^{カンギュチュン}姜圭燦という人が、社会に出てくるわけです。

《同郷の活動家・姜圭燦》

—^{カンギュチュン}姜圭燦さんは日本にいたのですか？ お姉さんが日本におられた？

金：ええ。^{キュチュン}圭燦は姉らを困らせたんですわ。仕事もせんと、^{チャイクウンドン ウルヘン}좌익운동을 해서 [左翼運動をして]
〈一同：笑〉。[左翼運動を] するからもう、姉らがその、弟をね、大事にして。

—それで、大阪でどんな仕事をされて？

金：やはり、まあ、どっか真面目に、あの自動車学校、行ってみたいだ。運転免許。

—免許取るための？

金：取れない。それでね、その^{キュチュン}圭燦のほうが日本におって。警察捕まっても真面目にやらんし、大阪におったんです。昭和6年か7年ですわ。日本共産党は昭和3年あたりにあおりをくって [1928年の三・一五事件]、うちの村の人6人が強制送還されたんです。この人たちが野田紡績*5の先頭に立ったんですわ。

—野田紡績工場というのは大阪にあった？

金：ええ、野田阪神の。堺とか岸和田にあった紡績工場を、この人たちが全部、荒しまわったんです。うちの村の人6人を連れて帰った。

—船が難破した時に^{カンギュチュン}姜圭燦さんが何かをしたんですか？

金：この人は簡単なことだけれども、罪に問われるようになったんですわ。傷ついた人、死んだ人を「馬持ってる者は馬持って来い」言うてね、病院に [連れて] 行った。その時にこの^{カンギュチュン}姜圭燦という人がね、青年の中でも一生懸命にやりました。5、6人がおりましたよ、この人のグループが。夜学をやったりね、そういうふうに使っていた。

そこへ^{チェジュド}済州島の竹中缶詰工場*6の支配人、大村とかいうのが、^{チョルラナムド}全羅南道の官選議員*7で、羽振りのきく奴を先頭に立てて、福井県の船主らがやってきた。うちの村は自動

車も通りませんよ、その当時。馬に乗って5、6人が来ましたよ、船の主と代表者が。それがきっかけですわ。

わし、小学校の3年の時でしたけどね。「あっち行け、行け」追われてもね、隠れて見てました。缶詰工場の支配人が全羅南道官選議員でもあるし、^{チェジュド}濟州島きっての権力者です。「おまえら葬式代、なんぼもらうねん」。これが始まりですよ。そこに参加した青年たちは「おおきに」と、丁寧にお礼の一言でも言うてもらえると思って集まったところが、「おまえら葬式代、なんぼもらうねん」。こうなったら^{カンギョチュン}姜圭燦が「おまえ、全羅南道の官選議員ともなる偉い人だと聞いていたが、何ちゅうものの言い方をするんだ!」[と言ったのを]友達が止めるわけです。「こんな奴、^{ほお}放っとけるか!」と、こうなるわけです。

——それから^{カンギョチュン}姜圭燦さんたちは、どうなったんですか？

金：竹中缶詰工場の偉い人や、船主なんかも来てるでしょ。そのまま馬に乗って、帰っちゃった。帰りながらね、隣の警察署長に「新桃里のアカ、みな捕まえろ」って。その明るる日からね、昼に学校行ったら、わしら何ともないんです。大手振って歩いている。夜学の先生、生徒5、6人捕まって、むちゃくちゃどつかれてね、そのために一人は、間もなく死にました。李フテいうて、わしより一つ下です。もう一人は神戸のほうにおります。

明るる日から、夜学の先生、出席簿があるでしょ。生徒が全部捕まる、先生が捕まる。^ち小っちゃな交番所で叩きのめすものだから、みなが覚えてるんです。これが^{チェジュド}濟州島のうちの村に対する弾圧の始まりで、^{カンギョチュン}姜圭燦らは捕まって、懲役も行きましたよ。だけど、^{キョチュン}圭燦は11カ月目に無罪釈放ですわ。もう言わない[自白しない]んだから。

《姜圭燦の妻・高ジニ》

——その話を何で知ったのですか？

金：その話を何で知ったか、いうたらね、^{キョチュン}圭燦は警察を出ても、自分の家に帰るバス代もないんですわ。誰一人、面会に来るのもないんですわ。11カ月間、警察に拘留されて、出てきたら^{チェジュド}濟州島でね、嫁さんもらって、家構えて住んでるんですよ。

わしら小さい時に、不思議なこともあるもんだなあと思って。そこでご飯もよばれたりして、大事にしてもらいましたよ。^{チェジュド}濟州島で2階建てなんて、そこしかありませんでしたよ。2階建の一人娘と結婚してるんです。それが裁判所の甥の嫁さんですわ。別れるか、別れんかもはっきりせんのに、もらっちゃったんですよ。それをね。一ぺんは^{キョチュン}圭燦がわし

に、家に来いや、言うて呼びに来たから、行ったらね。豚肉焼いてご馳走して。

カン・ソッチュいう巡査部長がおるんですわ。これが済州島で有名な巡査部長ですよ。その人が来てました。それで一緒にご馳走よばれる時にね、カン・ソッチュにこんなこと言うんです。「예 이것 보라. 버렁이 팻수다 [おい、これ見ろ。虫がわいた]」言うて。「아이 이 사람 [何言うんだ]」。「이 애가 물어 규찬이 피 버렁이 팻수다 [この娘が嘔み付いて、圭燦の血に虫がわいた]」。自分で、こうイヒヒヒって……。その人 [カン・ソッチュ] がね、嫁さんを世話した。警察出ても、行くところのない奴ですよ、圭燦は。[村に帰る] バス賃もないんです。歩いて40キロ行けますか？ わしね、じいっと話を聞いたんです。[カン・ソッチュは圭燦が] 憎いばかりじゃない、可愛い奴っちゃやと思っ
てね、嫁さんを世話したと言って自慢してました。

—お嫁さんの家族は？

金：このおばさん [妻の母]、椎茸山を持って、普通のおばさんと違いますよ。男でもコラ、バカヤロ言うてね、使いこなすんですわ。そのおばさんの二人のうちの姉娘を圭燦にとられたと、ぶつぶつ言うてました。警察 [カン・ソッチュ] がね、嫁さんを世話しただけじゃあなくて、「圭燦よ、おまえは日本で今まで何をやってきたんだ」と。「免許証もくれへんし、働かしてもくれへんし、するもんあるか」。おまえは免許持ったら自動車の運転も修理も全部できるわ、という話から、ヤンマーディゼルとつないで、精米機を済州島に導入することを決めてあげた。

—精米機を？

金：ポンポンポンポン、発動機ですわ。これ全部、警察 [カン・ソッチュ] の手回しです。手回しであれ、何であれ、圭燦がそれを考えて、うちの村に来て、石をゴロゴロ、2時間もかけて精米するのを機械でスーとやったら、どんだけ助かります？ 済州島全部に精米機をね、広げたんですよ、圭燦が。あの、4馬力の機械を買ってきてね、ウリコモブ 姑母夫 [父方の伯叔母の夫] のソンチャニ、その、ソンチャニ의 이문간에서 [二門間*8で]ポンポンポンポンやって、あの精米の実験をしてるんです。その村の人らのいうのは、そら立派なもんだっていうて。それで金出して村に大きな工場を建ててね、パンパンパンパン、機械。もう村、カクチャ [=각처. 至るところ] からあの馬に乗せて、精米に来るんです。その時にね、姜圭燦の親戚の姜家。それから 처가집의 사람들 [妻の実家の人たち]、何人か、金出し合って、機械買ってきて。次々と、もう次の村へ。済州島全部にあの人がその精米機を普及させた。ずうっと済州島にね、2、3年のうちにも大

きな家が建ちました。2階建てじゃない平屋ですけど機械を入れて、もう馬に乗って迎えに来るんですよ。「機械故障や」言うてね。

圭燦は解放された後、人がぜんぜん変わるんですね。濟州島の総元締めをやってたんですよ。米の総元締め。陸地から濟州島に米をどっと入れて、それを配る。濟州島は米ができないから。そういうことをやって隠然たる力を持っていたんですよ。

それを利用して、訪ねてきてね、写真をくれたりしたのが、北朝鮮で烈士陵*⁹、その圭燦の墓の写真かな、やっぱり。[姜圭燦は]北朝鮮行っても写真を写す間もなしに、戦争に参加して死んでしまったんだから。

——姜圭燦が智異山で亡くなったとか、夫人の高ジニ*¹⁰さんが刑務所で獄死したというのはどこで聞いたんですか？

金：それは行ったり来たりする人によってね、早くから知ってました。[高ジニさんが]便所にはまって自殺したというのを知ってました。

——姜圭燦さんは日本に来て、先生[金好珍さん]に会ったんですか？

金：日本に来たんです、用事で。彼、あの、濟州島のイなんとかいうの、あれサリヨングアン李徳九(④-⁵)じゃなし、その先輩や。イ。イ……名前忘れた。

——あの、金達三*¹¹やなくて？

金：あ、金達三。あれ、李家や。

——ああ、本名が[李氏]？

金：うん。あれの、お父さんと。仲がいい。

——姜圭燦さんと？

金：うん。それで達三が中道の小学校[現・大阪市立中道小学校]卒業して、圭燦のところへ来て、農業学校(④-¹⁰)の試験も受けたんです。すべって日本に帰ってきたけれどもな。その時に、写真を、達三の写真もわしが持っていて、[金達三の]嫁さんにやったよ、うん。

それで、[姜圭燦の]写真、誰かないかって言うて、北朝鮮でね。「동네 사람들 막[村の人たちみんな]探せ」。そんなもんあるわけない。わしがああ、北朝鮮行ったら、ウリ[うちの]親戚が来て「너, 규찬 사진 있나? [おまえ, 圭燦の写真あるか?]」さあ、「何

しますねん？」言うたら、いや、「비석 세울러니 [碑石を建てようとするのに] 写真がない」って言うて。[日本へ帰って] 来てみたら、1枚あったから、さっそく送った。

わし最近になってね、思ってることは、先生 [高奉浚さん] にもこの間、相談したところですが、[姜圭燦は] ^{チェジュド} 済州島から北朝鮮に行って、戦争にも参加して、国会議員 [朝鮮民主主義人民共和国の最高人民会議代議員] にもなって、北朝鮮にも息子らも娘らもおります。行ったら、ちょっと会うんですが、うちの村で犠牲になった人も何人もおりますし、なんとか石碑というものを建ててあげたいなあと思うんですわ、うちの村でね。ところが警察当局が手を出さないかという心配を、みながしてるんですわ。^{チェジュド} 済州島4・3事件と真相究明がうたわれて、今は法事でも手広くやってるようになってるんで、だけでも、みなが心配をしております、惨いやり方にね。何人か志のある人もおりますので、この際、立派な石碑をね、北朝鮮とも相談して建てたいと一人思ってるんですよ。わしは先が長くないので、^{キュチュン} 圭燦の石碑だけは建てたいなあと思ったりします。何人か賛成してくれとるのもおるし、100万や200万でできませんからねえ、石碑を建てたり、テニスコートでもひとつ傍につくって〈一同：笑〉、ハイカラなものにしたいと。いやあ夢は持ってます。毎日、そのことばかり考えて、この間、先生 [高奉浚さん] に言ったら「いいなあ」と。他人のことにように思ってる、勝手にしやがれと〈一同：笑〉。

友達は今なところにいるもんですね〈一同：笑〉。^{チェジュド} 済州島のことでこんなに集まるなんてないですわ。卒業しても他人ですわ。見ても知らん顔する奴おりますわ。だんだん情勢がいい方向へ大きく展開していると、密かに喜んでね、^{チェジュド} 済州島の^{キュチュン} 圭燦の墓をね、残そうかなと思うて考えております。

《夜学、そして「慰安婦」にさせられた友》

——当時夜学はどういう感じでした？

金：夜学はね、うちの村の人らはね、子どもらを学校にやらないですよ。わしはもう長いこと、その、学校行く年の時に漢文所という^{ソダン} 書堂*12いうんですわ。^{ハンムンソダン} 漢文書堂。そこへ行って、^{ハヌル} 空 [という意味] の^{チョン} 天、^{タン} 土地 [という意味] の^チ 地とって、中国語の勉強をするんですよ。

——ああ、漢文ね？

金：ええ。その、日本の学校いうものを、三つの村が一緒になって学校を中間の村に建ててね、学校へ行け、言うたら、もうみんな、^{ウリ} 우리 ^ア 아버지들 [父親たち] 学校行かそう

としないんですよ、ええ。なぜか言うたらね、ヤソ教〔キリスト教〕の勉強さす、言うて。本当は、独立運動さす、いうような意味です。学校出た者がね、案外、その独立運動。そういう、その警察に^{サダルナル}사달날〔大騒ぎになる。^{사달나다}は共通語の^{야단나다}야단나다に相当する濟州方言〕もんだから、学校も行かない、行かさない。

——どういう人が先生をしているんですか？

金：あー、その^{カギョゴギョ}가갸거겨を知っている人ですわね。^{가갸거겨}가갸거겨の勉強ですわ。その後、朝鮮語を教えんようになったんです。だから朝鮮語が言えないのも無理ないですね。わしらが、もう勉強した後はもう、^{ベジ}廢止。朝鮮語を使わない。

——この前、^{ソンセンニム}先生〔金好珍さん〕の話聞いた時に、挺身隊〔慰安婦〕に行った友だちがいとのことでしたね？ その話、してもらえますか？

金：あのね、こんなこと言ったらあかんけど、その人は小学校卒業して、×××っていう、日本のお菓子屋に勤めてましてん³⁾。

——どこですか？

金：うん、^{チェジュン}濟州市でしょ。大きなお菓子屋です。勤めてたんだが、うちも遊びに来たり、うちの弟も遊びに行ったりしてましたんや。はい。その人がね、勤め帰りに捕まえて慰安婦に。蘇州、中国の蘇州〈一同：驚き〉。蘇州行ってね、手紙がうちにいっぺん来てましたよ。うん……。蘇州に来たんだ、いうてね。

ところがね、終戦後、わしの知ってる人2、3人がうちに訪ねてきて「この人知らんか」いうて。「この人……^{チェジュド}濟州島で知ってたけども、蘇州行ったんでしょ」って言うたらね、それが大阪に帰ってきて結婚して生活してたんだが、どっか行方をくらましてしまったんだと。「知っているか」って。「いやいや、わしは日本に来ているのも知らんし、昔のことしか分かりません。この人どこに住んでますか？」言うたら、「どこそこへ嫁に行つて。その行ったんだが、うまくいかないから行方をくらまして、今探しているところや」って。後でね、ある結婚式場で会いましたよ〈一同：驚き〉。だから、わしの方では蘇州に行ったとばかり思っていて、日本に来てるということは知らなかったのに、その人は日本に来てわしには連絡もしないし、会うと思っていない。

3) 金好珍さんは特定の店名を語り、その店が濟州市城内の本町にあった商店であることは、当時の日本人の記録から確認しているが、プライバシー保護の観点から「慰安婦」被害者の特定を避けるため、ここでは削除した。

—その人が慰安婦になっていたというのは、どこで分かったんですか？

金：それは、あの……みんなが言うてますわね。その日本に帰ってきた時点で分かっただけです。わしは全然、その、蘇州の方へ何しに行ったのかも知りませんねん。もう簡単なハガキが来てるもんだから。で、日本に来てるとも知らんし。

—そしたら、そのアジュモニ [おばさん] が日本の菓子店から、急に夜に連れていかれて慰安婦になったというのは街中知ってた？

金：夜じゃなしに。仕事行って帰りに捕まった。そういうのが多いの。畑で仕事しとったら、バァーッて連れて行かれて。

—それは、そのあたりの人みんなが知っていた？ その街の人が。

金：ああ、知ってましたね。ところがこの人は日本に来て、[知っている人に] あんまり会いたくなかったん、違います？ その蘇州での生活から、日本に来て嫁に行って生活してても。

—連れて行かれたのはいくつの時ですか？

金：そうですね。その人が……20歳そこそこの時……今どっかにおりますよ。お寺におるって話をちょっと聞きましたけど。わしも訪ねもしひんし [訪ねもしないし]。……だから当然あの人らは韓国に帰る人やのにね、日本に来た、というのが、結局自分の国にも帰りたくなかったん、違いますか？ 日本に来て、知ってる人でも訪ねてみようかっていうことも考えられるけれども、それもしなかったってというのは、ね。

—あの、故郷が一緒ですか？

金：あの、城内^{ソンネ} (④-＊4) の下宿の近くですわ。

—先生はどういった友だちやったんですか？

金：わしも城内^{ソンネ}で下宿してたんですわ。その村での人で、ええ。うちに遊びに来たりすると、下宿屋のおばさんが「学生^{ハクセン}、そんなしたらあかんで」言うてね〈一同：笑〉。「人が見たら変に思う」言うてね〈一同：笑〉。

日本への渡航

《父の没落と母の渡日》

——^{キムホジン}金好珍さんのお父さんは村で金持ちやったって話ですけれども、どこの村で？

金：^{チェジュド}濟州島です。^{テジョンシンドリ}大静新桃里。

——お名前、何とおっしゃるんですか？

金：キン・トウ・シュク。トウはマス。一升，二升の升 [「トウ」という音から考えて、「斗」という字を言い間違えたものと思われる]，シュク，さんずいへんに叔父の叔。^お^{キムトウシュク}金斗淑。

——海産物の商売っていうのは，どんなものを扱っていたのですか？

金：あのね，アワビとか，^{チェジュド}昆布とか，^{チェジュド}濟州島でできるやつを集めて，釜山とかそういうところへ卸すわけです。

——えっと，運搬するのですか。

金：そういう船の便もあって，やったんですが，もう……すっかり……。

——海産物の取引がうまくいかなかった理由は何なんですか？

金：それは，日本の時代になったもんだから，結局誰かに誘われたんじゃないんですか？
^{チェジュド}濟州島のアワビとか，主な産物ですわね。それを買集めて釜山の方へ運んだんだが，金がもらえなかったり，欺されたりね。で，もう，家畑全部はたいて借金払って。だからうちのお母さんは「これじゃあどうにもならん」いうことで日本に来て。

——日本には^{オモニ}お母さんが先に来てたんですか？

金：先に来たんです。もう家が潰れたもんだから。わしが7つくらいの時ですわ。だからうちの祖母さんとお父さんと3人で暮らしてました。寂しいもんですわ。息子は勉強させなあかん，言うて，わしをずっと，あの……田舎から都会の学校へ入れてね。下宿して。6年間下宿生活。[濟州] 農業学校なんかでも，なっかなか入れないんです。10人倒さないと入れない。勉強しっかりやってたから，わしは農学校入るんも，わけなかったんだが，農学校の途中でね，わし，もう学校が嫌になって。

——なぜですか？

金：身体も悪かったし、その、軍隊は行かんならんし、徴用は行かんならん。それにだんだん戦争がうまくいかないもんだから、結局……兵隊も無理に出さないかん。そういうふうなわけで軍隊のその、[学校で] 軍練ばかりやるしね。

——ああ、その済州の農学校で？

金：そりゃあ、もう国全体がそういうナニだからね。

——ご兄弟は何人おられて？

金：わしは妹が一人おったんです。うちの母親がね、あの日本に住んで、国に帰って、妹を産んで、しばらくしてまた連れて日本に来て。

——妹さんとおいくつ違うんです？ 歳が？

金：15くらいちゃうかな。今、八尾のほうに [います]。

——お母さんは日本でどういう仕事をなさってたんですか？

金：^{ヨンブ} 昆布、^{ヨンブ} 昆布、^{ヨンブ} 昆布ってあるでしょ？ ワカメのごっついやつ。それをこう巻くんですよ。伸ばして、干して、それをまた、いろいろ昆布製品に加工する。

——昆布はどこから送ってきたんですか？

金：北海道です。それでうちの母親も巻くだけで。伸ばしてね。

——それは朝鮮の人もけっこうやっていたんですか？

金：まあ、あまり朝鮮人がそういう仕事するのは少ないですね。うちの母親はその家族のようなもんでね。

——日本の人の工場ですね？

金：もちろんです。

——お母さん、日本語は……？

金：あんまり、あの、言えないんですね。

——そしたらお母さんは、どうやってそこの工場に入れたんですか？

金：その当時は東成の方で、最初はね、[工場を] やってて。それで枚岡のほうへ工場を移したんです。移した時も、あの家の [人たちに] 母親はついて [行って]、家族のようにして。

——日本には、親戚の方とか知り合いとかいなかったんですか？

金：あまりおりません。うちの母親はどんな系統で来たかは知りませんがね。

《奈良の農業学校へ》

——^{キム ホジン}金好珍さんはどうして日本へ来たのですか？

金：昭和16 [1941] 年です。農学校3年を終えて4年になるころに日本に来たんです。わしは^{ウエサムチュン}外三寸 [母方の叔父] に言って「お金200円ちょうだい」と。「おまえ、200円何するんねん？」「日本に行きます」「おまえが農学校卒業したら何とか楽になると思っていたのに、日本に行ってどうするのか」って、えらい怒るんですわ。「だけど叔父さん、よう考えてみなさい。叔父さんは今、百姓やって楽に暮らしてまんのか？ 供出制、徴用に行け、やれ徴兵に行け、なんじゃかんじゃ、どんなんですか？ これでうまく世の中いきますか？ つまりは兵隊に行けと。私もいつ兵隊に引っ張られるか、わかりませんよ」。すると、叔父さんがにこっと笑って「おまえは偉い奴^やっちゃ。私が困ってることをおまえに言われるとは思ってもなかった。2, 3年して来いや！」と。お金200円あったら日本に行けると思って。

——それからどうなったんですか？

金：^{ウエサムチュン}外三寸が私より先にうちに来てますねん。うちの親父に「あの野郎が日本に行くと言っておるんだが、おまえは反対してないのか」と。うちのお父さんは「聞き初めですよ」と。「お金200円出せと言うんだが、どうするんや」。「本人が欲しいと言うんだったら、やりなさい」。お金200円出してもらって、日本にこっそり逃げられるというのがわかったんです。で、わしは誰にも言わんと2, 3日後に学校行って身分証明書^{*13}もらって、君が^{チエジユド}代丸^{*14}乗って日本に来たんですよ。もう濟州島には帰りません。

——当時、友人たちも逃げたんですか？

金：わしの友達が兵隊に行きました。農学校の同窓生が。こいつが言うんです。「おまえ

は偉い奴^やっちゃ、兵隊に行ってみて、しみじみおまえが偉いことがわかった」と。兵隊に行くなんて思ってなかったのが行って。この間、[その友達と] 60何年ぶりに済州島^{チェジュド}に行って会いました。それを言うてました。兵隊に行って、徴用に行って、なんじゃかんじゃと苦しめられることばかりですわ。その時に日本に来て、こっそり隠れて暮らしてるようなもんですけれども、済州島^{チェジュド}のこと、忘れてませんよ、ええ。

——大静^{テジョン}におられるご親戚のなかで、徴用されたり徴兵されたりした方も多いいんじゃないんですか？

金：多くはないんですが、何人かはおりますわ。死んだのもおるしね。[慕瑟浦の] 飛行場のトンネルつくってる時……その時にわしは日本に来たんです。

——済州島^{チェジュド}で農学校におられて、日本に来て奈良の学校に行かれてましたよね？

金：奈良県立農学校^{*15}ですわ。今もありますよ。

——何でそこに入ることになったのですか？

金：あのね、わし突然日本に来てね、学校に入るのに苦労しましたよ。大阪府の農学校いうのは堺にあるんですがね、行ったら、入れてくれないんですわ。もう席が満員だって。それで奈良へ行ったんですわ。それで朝早うからね。文の里からね、阿倍野から電車乗って、奈良行って2カ所乗り換えて、それで学校行く。まじめに行ってましたよ。

——天理の方ですか？

金：天理の隣ですわ。

——学費とかは、結構かかるのですか？

金：いや、そんな学費の問題じゃないですね。月謝いうたってしれてるし。

——お金は自分で稼いだんじゃなくて？

金：いや、うちの母親がおりましたからね。

——先生^{ソンセンニム} [金好珍さん] はいつ卒業したんですか？

金：昭和16年……17年の冬。繰り上げでね、3月にするやつをね、前の年の年末で、繰り上げ卒業いうんです。

——お父さんが日本に来られたら、^{チェジュ}濟州の家とか土地とかはどうされたんですか？

金：今も畑ありますよ。畑はそんな簡単に「手放せない」、あの。家は日本に来てから、東京の方の友だちが来てね、「家も空いてるから、東京の人が帰る言うてるんで、家を売ってやってくれ」って。4千円。家の、村でも一番広い家ですよ。家、3軒ありますわ。それを4千円。

——それはいつごろに？ 戦前です？

金：えー、わしが学校卒業してからだから、箒の仕事をやる時に、わしはおらなかったんですけども、東京の方へ来た人が、うちの親父を訪ねてきて。ハハハ。[濟州島に]家あったらわしは帰りたいな、思うよ。

——畑は親戚が管理してるんですね？

金：親戚管理してる。一銭もくれませんで〈一同：笑〉。1800坪の土地。

——そんなにあるんですか？

金：大きな畑ですわ。それあったら、みな一家族食べるのにね。

——箒の仕事はどのようなきっかけで始めたのですか？

金：玉突きをやっている工場が空いていたところがあったので、それを借りて、ね。戦時中だから、することがないんですわ。元手もないし、技術もないし。箒をね、竹を細かく千切りにして。ある人が、やってみい、と言うから、それをやってね、生活はできましたよ。そこで箒をやったんです。

よう売れて、金が儲けて。わしは学校卒業してから、日本の竹屋さんが研究してね、「これで箒をつくったらどうやろう」とある人が言ってきたので、それに食らいついてね、工場を。竹の箒、ササラボウキいうのを作ったんです。箒の繊維がなかなか入らないもんだから、箒さえもないんです。竹を細かに繊維にして針金でくくって箒にする。それをやったんです。あればなんぼでも売れるくらいだったけども、その繊維がそんなむちゃくちゃたくさんできるものでもない。九州、四国のほうへ竹を買いに、よう行きましたよ。運送ができない、いうので行って、ハンコ押してもらって移送証明書もらって、どんどん運んだり。それでも結構、あの、商売になって。

—それはお家で作っておられたんですか？

金：ああ、もちろん家で、よその方から女の子が5、6人来て働くと、交番の人が文句を言うんですわ。「こんなしたらあかん」って。「勝手にこんな仕事したらあかん」って。それでうちの母が靴下オモニを買ってやったり、何とか警察の人をまるめて〈一同：笑〉。まあ、法律ミがそうニなってるんでね。兵ニがないおりにね。戦争が済むまで。それで家ミも買うたり。わしのように生活してる者はおりませんでしたよ。

《父の渡日》

—それでは、お父さんはずっと大静テジョンにおられたんですか？

金：大静テジョンで住んでた。わしが来てから1年ほどして。昭和17[1942]年に日本に来ました。

—お父さんが日本ア ポ ジに来る時は、手紙かなんかで前もって知らせがあったんですか？

金：そうです。いつお父さんが行くから迎えに出ろ、言うて。あの、うちのお父さんは[それ以前に]日本にきたことないんです。朝鮮で商売やって失敗して、もう……うちの祖母ちゃんがおったからね、祖母ちゃんと二人で暮らしてたんですが、祖母ちゃんが亡くなって、わしは日本に飛び出して行ったんです。もう国にはお父さんが一人、日本にはお母さんが一人いうわけで、寂しくなったんでしょうね。後で、お父さん呼ぶのもね、なかなか証明がないと日本に来られません。

—日本に来る手続きが必要なんですよ？

金：ええ。わし警察行きましたね、「うちのお父さん、国行ってくる言うてますわ」って言うたら、「写真持って来たんか」いうて。「いや、写真持って来てへん」。「写真持って来い」って。それから韓国へ手紙を出して「写真を早ハよ送って下さい」って。[送ってきた写真を提出すると証明書に]ポンっとハンコを一つ押してくれて。それを韓国へ送ったんです。突然、あの、相談も何にもなしにね、日本に行けるパスポート [渡航証明書] をくれたもんだから。お父さんの兄がおったんです。よってかかって、もう全部荷造りして船に乗せたんでしょ。

—荷物がかなり多かったですか？

金：うちの親父がね、その粟やら麦やらね、済州島の食糧テェジュドをね、かますやらいっぱい入れて持ってきたんですよ。大阪港まで。大阪港から瓢箪山までね、肩引き車に乗せてね、

親子が押して、一晩中かかって行きましたよ〈一同：驚く〉。それが、運賃が3円。もう、^{チェジュド}濟州島から船で来てね、そんな積んでくるとは思ってへんがな。わしみたいに鞆一つで来るんかと思ってたら、「この荷物どないするんや」言うから、「なんですか？」言うた。もうどうしようもないですわ、どっか電話して自動車でも動かす方法もなけりゃね、そういうツテもないし、そういう自動車がある時代でもないし。だから、終戦、戦争済むまでその食糧でわしら、不自由なしに暮らしましたよ。

——お父さんは日本に来てから、何か仕事されたんですか？

金：いや、もう歳やから。仕事もできません。家の方で箒をするもんだから。釘打ったり、やってみましたけど。

解放後、運動に身を投じて

《朝鮮人連盟での活動》

——あの、箒を作るお仕事はずっとされていたわけですか？

金：いや、もう戦後やめた。戦後そんなしょうもないことしようと思わへん〈一同：笑〉。もう立派な、あんた、独立した国の人で。むちゃなことしましたよ。わしが住んでいた家もね。前には植木も植わっているし。あの、玉突き屋をやっていた家ですわ。大きな家、立派な家ですわ。ええ。それをその、日本の人で、わしとこが箒をやっていた時、私らの協同組合の事務員やってた人、「大阪へ帰りたいんだから家がない」言うて。「ここ来て住みなさい」って[言いました]。ただです、1銭ももらわんと。終戦後、家がない困る時にね。もう、おいらも朝鮮が独立したんだから。

——ああ、朝鮮に帰るから。

金：「そんなの心配すっか」言って。「[ここに]来て住みなさい」って。ええかっこして。ハハハ。ねえ、あほなことばかりしたな〈一同：笑〉。

——それで金さんはどこに移ったんですか？

金：わしはもう工場をしたもんだからね。林寺の方にね、[ある]お医者さんが戦時中兵隊につれていかれちゃったもんだから、[その]家が空いてたんです。それぞれ、黙って住んでた〈一同：爆笑〉。空き家がいっぱいですわ、その時分。

——そのお医者さんは帰ってくるでしょう。戦争終わって。

金：いや戦争終わって帰ってきてても、そら、自分の家じゃないんだから。その借家のおばさんがね、わしをものすごい大事にしてくれたんです〈一同：笑〉。大きな家に、わし一人住んでた。家財道具なんか、男の方はいらないし、そんなもん〈一同：笑〉。大きな家でしょ。お医者さんやってたんや。まあ、その人の方が帰ってきて、そこで〔今でも〕お医者さんやってますわ。

——借りていた家を売った？ 借家の権利を売ったんですか？

金：そうそう。明け渡して、わしは人の2階借りて。

——解放直後に箒作りをやめて、朝鮮人連盟^{⑤-＊11}に入ったんですか？

金：ああ……。もう初^{しよ}っぱなに入ってますよ。もう、結成と同時に「支部の文化部長をやれ」って言うて。わしが結婚もせん時ですわ。

——どこの支部ですか？

金：阿倍野区とね、東住吉区が一緒になって、東阿^{とうあ}支部って言うんですわ。寺田町駅ですわ。

——主にどういう活動をしていたんですか？

金：あの、学校を建てるんですね、学校……。学校の仕事が主です。その時にね、その、わしとこの支部の委員長が京都の立命館大学出ているけれども、朝鮮語の方は全然知らない。朝鮮の文字も知らない。そういう人が委員長やると、もう、わしについて歩くんです。あの朝鮮語をちょっと勉強したというのは、ほとんど日本におりませんでしたね。わしは朝鮮のほうで朝鮮語の勉強を6年まで。

——48年の阪神教育闘争^{*16}のころは、先生もそれについてお仕事をなさったとか？

金：私はね、年若くして文化部長^{ムンフアプジャン}して、支部の。学校建てるために一生懸命にしましたよ。

——そしたら4月26日に金太^{キムテイル}一少年が射殺された時も行っていました？

金：わし、大阪府庁に行っていました。府庁室に飛びこみましたよ、後で。で帰ってきたら、うちの娘が産まれて、こうしてましたよ。金太^{キムテイル}一が撃たれて死んでね、しょんぼりして帰ってきた、夕方ね。そしたら娘が産まれてた〈一同：「ウーン」〉。あの時の情けなさはいまだに、もう……。

——いつ結婚されたんですか？

金：わしが29の時に。その後、朝鮮人連盟が閉鎖 [解散させられ]、学校が閉鎖。49年？
50年くらいになってたんちゃうかな？ わし29歳の時に結婚した。

——4月26日に生まれた娘さん？

金：結婚してからね、4カ月目に生まれた〈一同：笑い〉。

——奥さんは、^{チェジュド}濟州島出身の方ですか？

金：違います。^{モッポ}木浦です。今でも、^{くまた}杭全町の方に自転車屋ありますわ。自転車屋の娘です。
うちの前をしょっちゅう通って、ちよくちよく来るんです。

《4・3事件の慰霊祭》

——1948年、^{チェジュド}濟州島で4・3事件が起こったという話は聞いていました？

金：私は^{チェジュド}濟州島をずっと離れておるから、国には家には誰もおらんのです。親戚もほとんどおりません。だから4・3事件のことには直接タッチできておりませんが、友だちらが、ようけ [たくさん] 死んでおりますしね。村の人を集めてね、慰霊祭をやったり……。

——事件のことは誰から聞きました？

金：誰から聞くわけじゃあないんですけども、村の人が行ったり来たりして。国に帰った人がほとんど大阪に舞い戻って来ましたね。

——4・3についてこれまでどう思われていました？

金：これはアメリカがやったことですよ、アメリカが。私はそういうふうに簡単に思っています。^{チェジュド}濟州島をみな、殺したって朝鮮の独立に差し支えない、と。朝鮮戦争の時からでも、私の言うことを聞かなかつたら取り締まると堂々と言っておるんですよ、アメリカの司令官が。西北青年団⁽⁴⁻¹⁷⁾の話も言うておりましたけれども、この人ら、^{チェジュド}濟州島に行つて暴れて来いと、ムチャクチャしてました。

いまだにその人らが権力を持っているようです。私の親戚の者がね、その後に嫁に行つてるんです。その嫁さんいわくね、「隠然たる力を持っています、西北青年団は」。それが^{チェジュド}濟州島の困難をかもし出した根源です。暴れてなんぼというやつです。どんどん、ど

んどんやってね、これが全部、アメリカの任務です。だから今、南朝鮮の青年たちがアメリカに反対して徹頭徹尾チョルトッチョルミやっていますね。もう騙されない、という。ここに南朝鮮の目が開くんです。

——ところで、慰霊祭はどこでやりました？

金：東成区玉造のなんとかいう寺があります、そこでもやったし。盛んにやりましたよ、その当時は。

——同じ村の人と一緒に？

金：そうそう。

——誰がしようと声かけたんですか？

金：親睦会というのがあります。親睦会が主になって、年寄りらを集めてね、歌を歌ったり、ご馳走したり。

——その親睦会の人たちが中心になって、4・3事件の慰霊祭を大阪でもしたんですか？

金：それはもうお金も出して、いろいろと盛大にやりました。

——慰霊祭ではどんなことをやりました？位牌とかは？

金：かりにね、山で殺されたお父さんの子どもらが、たいいてい大阪におるね。するとその遺族らを中心に。[遺族らの]慰めにもなりますしね、反対する者もおりません、その当時は。そこへ朝鮮総連がいつごろからかね、親睦団体が総連の先駆けみたいにするもんだから、総連一本に絞れ、言うて、そういうながあつたね⁴⁾。それからだんだんと日がたつと親睦会も歳とっちゃってね、若い者は、親睦会も何もいらんわ、言うてね。

——このころ、慰霊祭のころ、先生は何をなさってましたか？

金：はあ、何かやりましたね〈一同：笑〉。そらあ、私らが先頭に立ってやりました。ええ、中心ですからねえ。

4) 4・3事件の民衆蜂起を主導したのは南朝鮮労働党（南労党）済州島党だが、南労党の指導者だった朴憲永が1955年に平壤で粛清されると、朝鮮総連でも4・3事件について積極的な言及は見られなくなる。ここでは4・3慰霊祭を主導する親睦会と朝鮮総連の関係が語られている。

——^{カンギョチャン}姜圭燦さんや^コ高ジニさんの慰霊祭をされたんですか？

金：やりました。

——何回もやる？

金：いやあ1回ですね。新聞に出た後で村の人たちが集まってね。

——新聞に出た後？

金：それまでは、あまり詳しいことは知ってませんでした。北朝鮮のことはなおさらのことね。

(以下、次号)

*本研究は科学研究費補助金(課題番号18530396)の助成を受けたものである。

【用語解説】

* 1 小学校

金好珍さんが小学校に通った時代は第2次朝鮮教育令(1922年)に基づき、朝鮮には尋常小学校に相当する普通学校(6年制、5ないし4年制もあった)と中学校(旧制)に相当する高等普通学校(5年制)および女子高等普通学校(5ないし4年制)がおかれ、日本人の通う小中学校とは区別されていた。ただし済州島における中等教育機関は後述の済州農業学校のみであり、また教員養成の師範学校(男子6年制、女子4年制)は全羅南道では光州に設立されていた。なお1938年の第3次朝鮮教育令により、普通学校は一律に小学校と改称され、師範学校の修学年限も7年になった。

* 2 ^{ヤンホンギ}梁洪基

1924年光州で弁護士登録。その後判事、全羅南道会議員(選挙で選出)を歴任、解放後は済州地方検察庁検事長を務めている。なお文中に出てくる「崔判事」とは、大韓帝国期に済州島で検事・判事をつとめ、植民地時代には弁護士となった崔元淳のことと思われる。

* 3 ^{モスルポ}慕瑟浦飛行場(再掲、一部補足)

日本海軍は昭和初期に済州島に航空基地を作る計画を立て、1931年から済州島南西部の慕瑟浦で面積約20万坪の^{アルトゥル}飛行場造成工事に入った。1937年の完工後も戦争の拡大とともに周辺住民を拡張工事に強制動員し、1945年には80万坪にまで拡張した。滑走路のほか、格納庫、対空高射砲陣地、地下陣地などが建設され、いまも一部が放置されたまま残っている。太平洋戦争期、この飛行場には佐世保海軍航空隊が駐屯し、輸送機・戦闘機25機が配備されたという。

カンギュチュン
* 4 姜圭燦

1902年済州島大静面新桃里生まれ。青年期に渡日して労働運動に参加、1930年代大阪の紡績工場争議に関与して逮捕され有罪判決を受ける。解放後、1945年10月の朝鮮共産党済州島党創設に参加して財政部長。4・3事件直前、南朝鮮労働党済州道党の武装闘争を支持する強硬派に属したとされる。1948年8月金達三らとともに済州島を脱出して海州の南朝鮮人民代表者大会に出席後、平壤に滞在し朝鮮労働党中央委員会の要職にあった模様。朝鮮戦争勃発後、南下して智異山のバルチザン部隊に合流するが1951年2月初旬戦死した。後述の高ジニは夫人。氏名漢字表記は済州道庁編『済州抗日独立運動史』（1996）による。

* 5 野田紡績

現在の大阪市福島区に野田紡績株式会社が創設されたのは1894年であるが、度重なる買収と合併を経て1918年大日本紡績株式会社（現ユニチカ）に統合される。野田紡績の工場は大日本紡績に引き継がれたが、紡績工場としては規模が小さく敷地も狭隘で市街地内にあったことから、中国青島への工場進出を契機に1920年に廃止、閉鎖された。

なお1920年代から30年代にかけ日本の紡績業は頂点を迎える一方、労働争議も頻発していた。大阪府泉南地方に集中した紡績会社でも争議は恒常的に発生したが、1930年の岸和田紡績（工場は岸和田と堺にあった）争議に象徴されるように、当時、大量導入されていた朝鮮人女性労働者が争議に積極参加するケースも多く、朝鮮人の労働運動活動家が争議の指導やオルグ（組織化）のため関与していた。

* 6 竹中缶詰工場

1926年（28年説もある）済州島北西部の翰林面翁浦里で操業を開始した朝鮮最大の缶詰工場。竹中缶詰会社は1910年に京都・祇園で竹中仙太郎が創業した高級青果商の発展したもので、後に軍用牛肉缶詰の生産を始めた。翁浦里工場には、当時済州島に十余ヵ所あった缶詰工場の中で唯一発動機を備えていたという。1920年代末の年間牛肉缶詰生産は島内生産高の4分の1を占め、44名の労働者（うち日本人8名）が働いていた。太平洋戦争期に軍需用工場となり、朝鮮解放後の1946年アメリカ軍政府により敵産として没収された。

* 7 官選議員

1933年、朝鮮内の地方行政機関としての道制が実施されるとともに、道会も設置された。議長は道知事が兼任した。道会議員のうち3分の2は下部の府会議員、面協議会議員による選挙で選ばれ、残り3分の1は道知事が任命した官選議員である。任期は4年。道会は歳入歳出の予算・決算など重要案件に関する議決権を有したが、独自の条例や規則を制定する権限は持たなかった。なお、当時済州島は全羅南道の行政区画に属しており、1937年5月11日づけで全羅南道知事は大村隆行を道会議員に任命している（全羅南道告示第84号）。

* 8 二門間

当時は三間の家が一般的であったが、なかには門構えのある家もあり、そのような家には門の横に作男の住まいとしての棟が建てられていて、これを二門間と呼んだ。1930年代になると作男もいなくなり、ほとんどの家では倉庫代わりに使っていたと言う。

* 9 ^{ヨルサヌン} 烈士陵

朝鮮民主主義人民共和国で革命烈士や社会主義建設、国家建設などに貢献した人物を葬る墓所。平壤市内の大城山革命烈士陵と平壤南西部新美洞に位置する愛国烈士陵がある。前者が金日成とともに満州で遊撃隊活動を戦い功績を残した指揮官クラス（金策、崔賢、金一、金正淑ほか）を葬る一方、後者は多数の抗日革命烈士、社会主義建設に寄与したとされる官僚、軍幹部、教育や科学文化活動の功労者、さらには北に入った南出身の民族主義者など570名にのぼる多様な人物の遺体を安置している（2003年現在）。愛国烈士陵は1986年9月に完工した。

* 10 ^コ 高ジニ

4・3当時、30代前半で1946年から朝鮮共産党済州島党婦女会長。夫の^{カンギョチュン}姜圭燦とともに1948年8月済州島を脱出して海州の南朝鮮人民代表者大会に参加、その後平壤市人民委員会保健副部長を務めた。朝鮮戦争勃発後南下してパルチザン活動に参加したが1951年2月韓国の軍警に拘束され、秘密保持のため自殺したといわれる。高ジニの名前の漢字表記には高珍姫と高真姫の二通りが存在するのでここではカタカナ表記にした。

* 11 ^{キムダルサム} 金達三（再掲、抜粋）

4・3事件勃発当時の遊撃隊司令官。本名・李承晋。1926年、済州島大静面永楽里に生まれる。48年8月初めに済州島を脱出し同月21日から海州で開催された南朝鮮人民代表者大会に出席、済州島の闘争の成果を報告した。49年には南朝鮮に戻って太白山地区でのパルチザン闘争を指揮し、50年3月ごろ戦死した模様である。

* 12 ^{ソダン} 書堂（再掲）

朝鮮王朝時代に発達した、私設の初等教育機関。『千字文』『童蒙先習』などを教材に、経書の講読・制述・習字などを教えた。韓国「併合」後、朝鮮総督府は「書堂規則」（1918年）などを公布してその管理に乗り出したが、書堂数はむしろ増加し、1920年代初頭のピーク時には全朝鮮で約2万5千を数えた。植民地時代には、算術や日本語などを学ぶ「改良書堂」も出現した。

* 13 渡航証明書

植民地期の朝鮮人は日本への自由渡航は認められておらず、1919年からは居住地警察署に旅行先と旅行目的を届け出て渡航証明書の発給を受け、さらに最終出発地で警察のチェックを受けることを義務付ける制度が始まった。こうした制度は日本国内の景気変動や治安対策によって猫の目式に変遷するが、おおよその期間、渡航証明書の取得は渡日を図る朝鮮人に義務付けられていた。

* 14 君が代丸（再掲）

解放前、尼崎汽船部という企業が、済州島と大阪を結ぶ定期航路に運航した船舶の名。1923年3月に就航した初代君が代丸が25年9月に済州島東南部で座礁したため、翌26年半ばより第二君が代丸が就航、45年4月、アメリカ軍の爆撃により大阪・安治川の千船橋付近で撃沈されるまで運航を続けた。

*15 奈良県立農学校

当時存在した奈良県立磯城農学校（現・県立磯城野高校）または添上農学校（現・県立添上高校）のいずれかと思われる。後者はJR桜井線いちのもとで「天理のとなり」の樺本町にあった。

*16 阪神教育闘争

日本政府はGHQの指令により1948年1月文部省学校教育長の通達で朝鮮人民族学校の否認を各府県知事に指示し、同年4月各地で朝鮮人学校閉鎖命令が出された。大阪では、4月23、24日に民族教育擁護を唱える在日朝鮮人1万5千名が大阪府庁舎を取り囲み府知事に学校閉鎖命令撤回を求めた。さらに26日にも府庁前集会が開かれ、警察は強制解散にピストルを実射した。この結果16歳の金太一少年は頭部貫通銃創で死亡、多数の重軽傷者を出した。神戸では4月24日に5千名の朝鮮人が兵庫県庁舎前に集まり、岸田幸雄県知事との交渉の結果、学校閉鎖命令の撤回を同意させた。しかしGHQは同日夜に神戸地域に非常事態宣言を発令し、合意を無効とした上で25日未明より神戸地域で朝鮮人の無差別拘束を開始、1732名を検挙し最終的にうち39名を軍事裁判に起訴した。軍事法廷は無罪の2名を除く37名に最高重労働15年の重刑を下した。朝鮮人民族教育は以後大きく後退を余儀なくされるが、必死の交渉を継続した結果、かろうじて民族教育の命脈は保たれた。阪神教育闘争は在日朝鮮人民族運動における歴史的な事象として記憶されている。